

堀川に対する沿岸住民の意識の調査

名城大学理工学部環境創造学科 学生 ○稲地洋平
 名城大学理工学部環境創造学科 正会員 伊藤政博

1. 研究目的

堀川は全長 16.2km, 名古屋市を南北に流れ, 慶長 10 年 (1610 年) 名古屋城築城と同時期に人工的に開削された河川でかつて物流の大動脈として市民の生活や町の発展を支えていた. 明治維新後 (1867 年), 物流形態は船運から陸運へと移り変わり, 人々の堀川に対する関心は薄れ, 大正後期 (1920 年代) から, 堀川沿岸の都市化と工業化による排水の堀川に流れ込みにより, 水質汚濁は昭和 41 年 (1966 年) に BOD が 54.8mg/l を記録している. しかし, 1980 年代後期頃から, 都心に残された数少ない水辺空間として堀川の実存意義が注目され導水など, 住民の水環境の改善が図られてきている.

本研究は, 堀川沿岸で生活し仕事をされている住民の方々に水質, におい, ゴミ, 親水性, 景観, および生物の生息についてアンケート調査し, その実態を明らかにすることを目的としている.

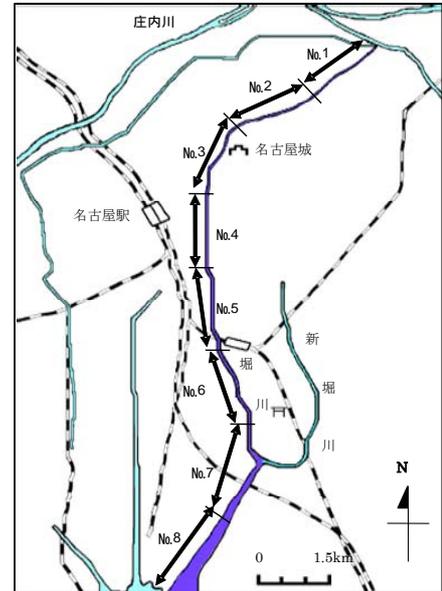


図-1 堀川地図

2. 研究方法

堀川を約 2km 毎に 8 分割し, No.1~No.8 の全 8 区間とし, その区間の沿岸に住居している民家, および, 堀川側道の通行人に対しアンケート調査する. アンケート調査は(1)水質(2)におい(3)ゴミの量(4)親水性(5)景観(6)生物の多さの 6 項目について現在の評価, 昔の評価, 改善について調査した.

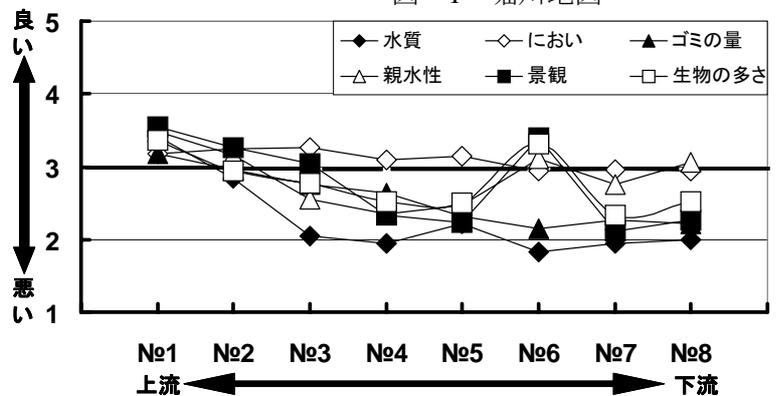


図-2 アンケート調査地域No.別の評価の変化

3. 調査結果

1) 現在の堀川の評価: アンケートは各項目について 5 段階で住民に評価してもらった. その調査結果を地域No順に分け図-2 にまとめている. この図から「水質」の評価は地域No1 が良い “3.4”, 地域No3 で悪い “2.0” になり, これより下流では悪い “2.0” “前後になっている.

「におい」は地域No1 で “3.2”, 地域No8 で “2.9” であり, 地域No1~地域No8 の間は “3.0” でほとんど同じである.

「ゴミの量」の評価は地域No1 でどちらもいえない “3.0” で, 下流に向かって評価は徐々に下がり, 地域No8 で “2.2” になっている. 「景観」, 「親水性」, および「生物の多さ」は, 地域No

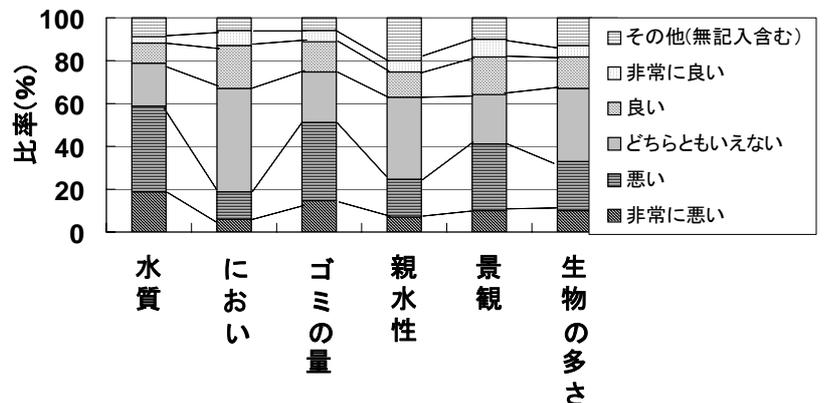


図-3 現在の堀川の評価

1では“3.5”程度で下流に向かって全体に評価が下がっている。しかし、地域№6では“3.3”と評価が急に上がっている。これは遊歩道が整備されており、また近くに熱田神宮公園、白鳥公園、白鳥庭園といった公園・庭園があるためである。

2) 堀川の地域№1～地域№8を平均した結果が図-3にまとめてある。この図から「非常に悪い」と「悪い」を合計した結果が「水質」は59%、「ゴミの量」は51%となっている。

しかし、「におい」と「親水性」については「非常に悪い」と「悪い」を合計した結果は、20%および25%になっている。特に「におい」については「非常に良い」と「良い」を合計すると悪いよりも大きくなっている。

「におい」については、鼻が慣れてしまっていることが指摘される。

3) 優先的改善比率: 「優先的に改善してもらいたい項目は何ですか?」という設問に対する地域№別の結果が図-4にまとめてある。この図から「水質」は地域№3で38%あるが全体に下流に向かって要望が多くなっている。一方「現状維持」は地域№1から地域№5まで23%～30%で推移していたが地域№6以降では10%弱と要望が少なくなっている。

「ゴミの量」は全体的に9%～15%を推移しているが地域№6で24%と要望が多くなっている。これは遊歩道が整備されているため、側道を歩く人が多く、ゴミが目につきやすいためだと思われる。

さらに堀川全域(地域№1～地域№8)置ける各項目の平均値が図-5にまとめてある。この図から「水質」が37%、ついで「現状維持」が20%、「ゴミの量」が14%となっている。

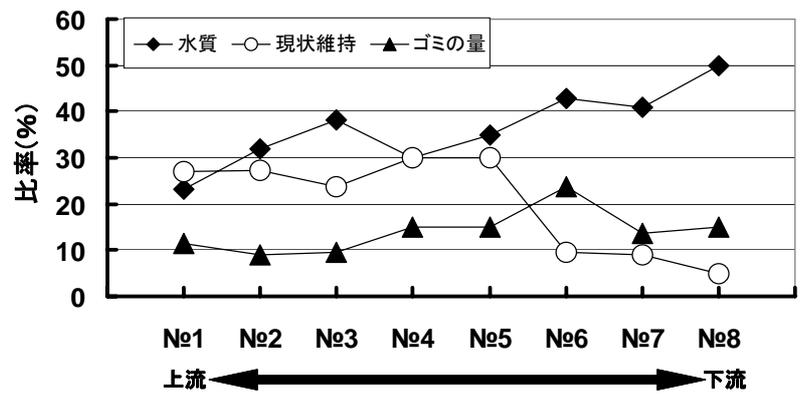


図-4 アンケート地域別№の比率

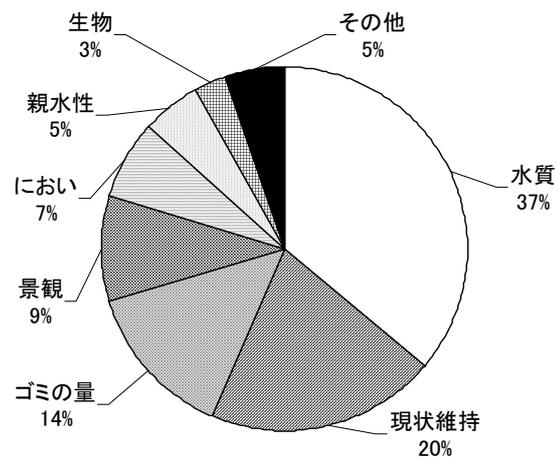


図-5 改善優先比率

4. まとめ

- 1) 「水質」、「におい」、「ゴミの量」、「景観」、「親水性」、および「生物の多さ」の地域別の評価が上流から下流に悪くなっている。しかし、熱田神宮公園、白鳥公園、白鳥庭園がある地域では「景観」、「親水性」、および「生物の多さ」について評価が高くなっている。
- 2) 「現在の堀川の評価」は全体で「水質」、「ゴミの量」が「非常に悪い」と「悪い」という評価が多い。沿岸住民は堀川の「水質」、「ゴミ」に関して不満を持っている。
- 3) 地域№別の「改善優先比率」で「水質」は下流に向かって要望が多くなっていることから下流に向かうほど「水質」の改善が求められている。

5. 参考文献

- 1) 臼井基文：堀川と中川運河における水質の現状と浄化，名城大学理工学部環境創造学科卒業研究論文，2006，3
- 2) クリーン堀川：http://homepage1.nifty.com/uni-hp/atsutakko/hori-saisei/clean_horikawa
- 3) 堀川1000人調査隊：<http://www.horikawa-lions.com/chousatai/index.html>
- 4) 日本水環境学会：日本の水環境 東海・北陸，技報堂，pp.1~225. 2000